

平成16年度 教師海外研修（派遣国：マラウイ）実践報告書

1. タイトル ぼくたち 地球人

2. 氏名 賀島 美恵子

学校名 津島市立西小学校

担当教科 全教科（除：理科・音楽）

3. 実践教科 総合

時間数 22 時間

4. 対象生徒・学年 小学校 6 年生

対象人数 33 人

5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

6 月から総合の時間を使い、興味を持った国について調べたり、人を招いて交流会を行ったりしてきた。知らないことを知るのは楽しく、日本との相違点に気づいたり、進んで人とかかわったりする姿が見られた。世界についての関心が高まってきた子どもたちに、研修で行ったマラウイの実情を紹介することを通して、日頃ふれることの少ない世界の現状や問題点を知らせ、そこから自分の生活を振り返り、さらには、地球人として自分に何ができるか考え、行動に移させたいと思い、実践を行った。

(2) 授業の構成案

| 時限・テーマ・ねらい | 方法・内容 | 使用教材 |
|--|---|---|
| 1～4限目 “マラウイってどんな国？” マラウイについて知り、興味を持たせる。 | (1) アフリカについてのイメージだしをする。 (2) 写真を見て、気がついたことを出し合う。 (3) 4 択クイズで、マラウイの概要(位置・面積・人口など)を知る。 (4) ビデオを見て、マラウイの様子を知る。 (5) やってみたいことを話し合う。 | (2) マラウイの写真 ① (3) 白地図、4 択クイズ ② (4) ビデオ |
| 5～12限目 “やってみようマラウイの生活” マラウイの生活の一部を体験し、生活の様子をつかませる。 | (1) 水運び (2) シマづくり (3) おもちゃを作って遊ぶ。 (4) 体験をして感じたことを振り返り、共有する。 (5) 生活時間の比較をする。 | ③ ④⑤ (5) 生活時間表 JICA クロスロード ⑥ |
| 13～20限目 “世界の現状を知ろう” WS を通して、世界の問題をつかませる。 | (1) 学校へ行けない子の存在を知る。 (2) WS を通し、識字の大切さを知る。 (3) 世界の食糧事情について知る。 (4) WS を通して、食料の不平等について知る。 (5) 「世界がもしも 100 人の村だったら」のビデオを見て、世界の子供の現状を知る。 | (2) ワークショップ版「世界がもしも100人の村だったら」 ⑦ 『学校へ行きたい』JICA 資料⑧ (3) ハンガーマップ (5) ビデオ |
| 21・22限目 “自分の生活を振り返って考えよう” 幸せについて考え、自分の生活を振り返る。 | (1) 幸せについて考える。 (2) 自分の生活を振り返り、どのようにするとよりみんなが幸せに暮らせるか考える。 | (1) 保護者アンケート ⑨ ⑩⑪ ※○の数字は、資料・写真の番号 |

<授業記録>

1. “マラウイってどんな国？”(1～4限目)

(1) アフリカについてのイメージだし

アフリカについてのイメージだしを行った。アフリカについて思いつくことを出してみると、

・自然が多い ・水があまりない ・サハラ砂漠 ・野生動物 ・ジャングル ・アフリカゾウ
 ・家がわらでできている ・虫を食べていそう ・弱肉強食 ・狩りをする など

自然について思い浮かべることが多く、あとは珍しいものを紹介するテレビ番組に出てくるようなイメージがでてきた。

(2) 写真を見て気がつくことを書く

そんな子供たちに、自然・暮らし・学校などの様子のわかる写真24枚を紹介し、気づいたことを書かせた。あれもこれも紹介したいと思い枚数が多かったので、じっくり細部まで見ることはできなかったが、興味は人と食べ物に集まり、近代的なスーパーがあることに驚いていた。

(3) マラウイの概要を知る

写真を使ってマラウイの紹介をした後、細かい情報(位置・面積・人口・子供の割合・公用語・寿命・主な産業・マラウイの愛称など)について4択クイズを行って補足した。

(4) ビデオ視聴

その後、マラウイで撮ってきた現地の映像を見せた。写真で見たアフリカゾウの動いている姿に喚声をあげ、陽気に歌い踊る姿に興味をもち、すぐに歌を口ずさんでいた。

(5) 感想の共有とやってみたいことを話し合う

ここまでで印象に残っていることを聞くと、

・やさしそうな顔 ・人があたたかそう ・陽気 ・よく踊っていた ・歌がハモっていた
 ・ものをそまつにしない ・寿命が短いのにびっくりした ・親がいない子はどうやって生きていくのか

人についての印象が多かった。データとして与えたことと映像を結びつけて捉えている子もいた。

次は実感としてもとらえてほしいと思い、やってみたいことを話し合った。その結果、**水運び**

シマづくり、**おもちゃを作って遊ぶ** をやってみるようになった。

2. “やってみようマラウイの生活”(5～12限目)

(1) 水運び

頭にバケツをのせて運んでいる様子や汲み置きの水を食事に使っている写真を見て、マラウイの水事情について説明した後、バケツに水を入れ、頭にのせて1人50mlほど運んだ。実際にやってみて、以下のような感想がでた。

・簡単そうだったけどえらかった ・マラウイの子供はすごい ・よく平気のできるなあ
 ・どうしてマラウイには水道がないのか ・日本は便利 感謝しなくっちゃ ・水を大切に使う

(2) シマづくり

写真を見たときから一番関心のあったシマ。何でできているのか、どんな味がするのか。とても楽しみにしていた。インターネットでとった資料をもとに、教師が実際に現地の家庭で手伝ったのを思い出しながら作った。事前に練習もしたが、あまりおいしくできず、子供たちの感想は、

・ワラビもちみたいだった ・おいしそうだと思っていたけど口に合わなかった ・まずかった マラウイの人はこんなものを食べているのか ・味は人によって違うと思った

とさんざんであった。「マラウイで食べたのは、もっとおいしかったよ」とよいイメージ作りに必死であったが、そうした中、「私はおいしいと思わなかったけど、マラウイの人も日本の料理を食べてまずいと思うかもしれない」という子の意見にはっとさせられた。自分のものさしだけで見るのではなく、相手の側に立ってみる見方の大切さに改めて気づかされた思いがした。

(3) おもちゃを作って遊ぶ

手作りのサッカーボールで楽しそうに遊ぶマラウイの子を見て、自分たちも要らないものを使っておもちゃを作ることにした。どの家庭にもプラスチック類のごみはたくさんあり、ビニールも大切なマラウイとはかなり違うが、子供たちなりに考えておもちゃつくりを楽しんでいた。

・マラウイの子は少ない道具で上手に作っていてすごいなあ ・ボールを作るのは難しかった
 ・工夫して作るのは難しく、アイデアが浮かばなくて少し悲しかった

(4) 体験を通じて感じたことを振り返り、共有する

体験をして感じたことを振り返った。異文化体験をした後に感じる「日本は豊かだ」「日本とは違う」という感想と共に、「マラウイの子はえらい」「発想がすごい」と素直に感心する声もでた。

(5) 生活時間の比較をする

体験を終え、マラウイの子たちがどのような1日を送っているのか自分たちと比べてみることにした。マラウイの資料はなかったが、『クロスロード』—世界の子どもたち⑩—から、ザンビアの小学6年生の1日を例に比べてみた。朝風呂を勧められたという教師の体験や水運び・シマつくりの体験が、「朝夕風呂に入り、昼夜はシマを食べ、水運びの手伝いをする」という紹介された記事と一致し、子どもたちは親しみを持って比べ、「自分は夜寝るのが遅い」「ザンビアは学校にいる時間が短いのはなぜ」などの感想をもった。

3. “世界の現状を知ろう”(13～20限目)

マラウイを例にアフリカの国の生活について疑似体験等を通して知った後、そこにある厳しい現状を知らせたいと思った。教師自身が心を動かされた、『学校に行けない子』、『食べ物が十分でないこと』に絞って取り上げることにした。

(1) 学校へ行けない子の存在を知る

部屋の四隅を使って、自分と学校とのかかわりを振り返り、学校に行かない子供に目を向けさせた。「なぜ学校に行かないと思うか」と問うと、

・いじめられる ・めんどくさい ・友達がいない ・嫌いなものがでる
 ・家から遠い ・家で虐待がばれる

など、多くは日本の自分たちにあてはめた意見がでた。そこで、統計の数値(入学時学校に行かない子供の数、働く子供の数など)をみた後、JICAの「世界の諸問題—初等教育就学率—」のデータを使い、下位20カ国を白地図に落とし、アフリカに集中していることを確認した。

(2) WSを通し、識字の大切さを知る

学校で学ぶことは何か1人10個考えた後、学校で学ばず、読み書き・計算ができないというのは、どういうことか二つのアクティビティを通して体験してみることにした。まずは、ネパール語で毒と薬と書いた塩水と砂糖水の入ったペットボトルを用意し、文字の読めない両親が病氣の子供に薬を選んで飲ませるといったもの。次はあるメッセージを文字や数字を使わないで伝える

というもの。この二つを体験した後、自分の読み書きができてよかった経験を振り返り、JICAの「学校へ行きたい」の資料を使って補足した。

- ・学校へ行けない子供がいるなんてびっくりした
- ・読み書きができないつらさがわかった
- ・自分は元気に学校へ行こうと思った
- ・学校へ行けるようにするにはどうしたらいいだろう

活動を続けるうちに、今まで単なる感想で終わっていたのが、事実を知ったり、WSで体験したりすることによって、子供の心の中で変化が起きてきているのを感じた。

(3) 世界の食糧事情について知る

ハンガーマップを見せ、何を表す地図か予想させた。「学校へ行けない子が多い」「地雷がうまっているところ」「貧しい国」「都会になっていない」などの意見がでた。飢餓地図であることを知らせ、統計データを紹介し、食べ物はあるのになぜ足りない国があるのか考えさせた。

(4) WSを通して、食料の不平等について知る

世界の現状を紹介し、統計の数値に基づき、くじ引きをしてクラスを3つの世界にわけ、給食を利用してハンガーマップを行なった。一目見てわかる人数と食料配分、特に第3世界になった子供たちはその少なさに驚きの声をあげていた。

(5) 「世界がもしも100人の村だったら」のビデオを見て、世界の子供の現状を知る

世界の食糧事情についてデータで知り、疑似体験をしても伝わらない実際の厳しさを、ビデオを見ることによって感じてほしいと思い、スーダンの少年兵など取り上げたビデオを視聴した。奪い合うようにシマを食べ、時には5日もまともな食事をしていない子供の姿に、第3世界にあっていた子供は、「あの状況よりもっとひどい」と感想を述べ、信じられない様子だった。

4. “自分の生活を振り返って考えよう”(21・22限目)

(1) 幸せについて考える

時々の感想の中に、「幸せ」という言葉がでてきた。この実践を行う前に聞いたときは、「ゲームをしているとき」「風呂に入っているとき」「友達といるとき」に幸せを感じるという子が多かった。今回同じように聞いてみると、その中に

- ・家族がいること
- ・学校に行けること
- ・生まれてきたこと
- ・生きていられること
- ・平和なこと

という新たな視点が入ってきた。さらに保護者の方に協力していただいたアンケート結果をもとに当たり前の生活が営める幸せについて、再確認をした。

(2) より幸せなくらしのために

今回は、まず自分の周りの幸せな生活のために、自分にできることという視点から考えさせた。

- ・会話をする
- ・相手の気持ちを考えて行動する
- ・自分のできることを一生懸命する
- など

日頃の自分の生活を振り返り、その中でできる自分なりのことを考えることができた。

<実践後の所感・反省点>

実際に現地を訪れる研修に参加したことを通して、教師自身の視野が広がるとともに、子供たちに伝えたいという強い思いを持って実践に取り組むことができた。その際、現地で撮った映像をはじめ実物が子供たちの興味を引き付けるのに役立った。現地資料・データ・疑似体験などを組み合わせ実践することにより、問題が子供の心により実感できるものになり、考えるもととなったと

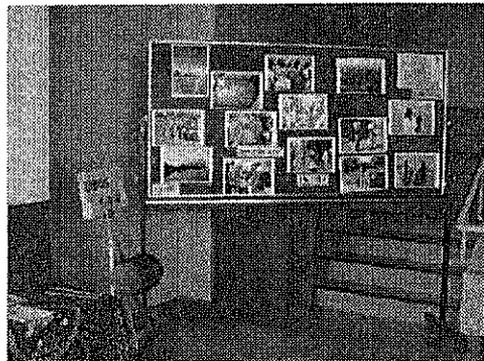
思う。さらにそこから、子ども自身からでた疑問をもとに調べたり、考えたりする活動を入れるとさらによかったのではないかと思う。時間配分と内容等、全体の流れを見通したプログラムづくりの必要性を感じた。

最後になりましたが、貴重な体験をさせていただくことができ、たいへん感謝しています。また、ともに研修に参加した先生方にも恵まれ、刺激を受けつつ実践を行うことができました。ありがとうございました。

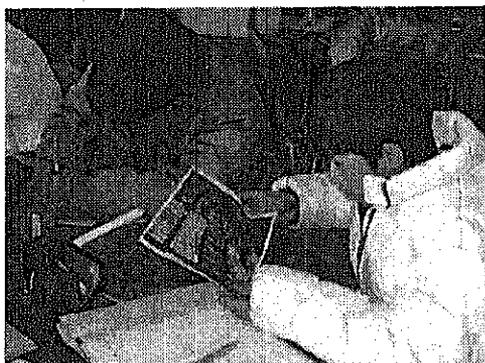
<参考資料・写真等>



夏休みあけ、作品展での展示1



夏休みあけ、作品展での展示2



マラウイの写真を見て気づいたことを書く①

| | | | | |
|----|-----|---|----|-----------------------|
| 1 | 場所 | 3 | 首都 | マラウイのリムベ |
| 2 | 言語 | 1 | | |
| 3 | 面積 | 4 | | 11,300km ² |
| 4 | 人口 | 3 | | 1100万人 |
| 5 | 子ども | 6 | | 4割 |
| 6 | 学校 | 9 | | 3割 |
| 7 | ことば | 2 | | 英語 |
| 8 | 産業 | 1 | | 農業 |
| 9 | 輸出品 | 2 | | タバコ |
| 10 | 呼び名 | 3 | | マラウイの青い花の国 |

マラウイについての4択シート②



水運び体験③

平成16年度 教師海外研修(派遣国:マラウイ共和国)

実践報告書

1. タイトル ミラクル発見タイムパートII <ウル・ルン・ワールド>

2. 氏名 金森美津子

学校名 名古屋市立長須賀小学校 担当教科 小学校

3. 実践教科 総合的な学習 時間数 30時間

4. 対象生徒・学年 3年生 対象人数 77名

5. カリキュラム案

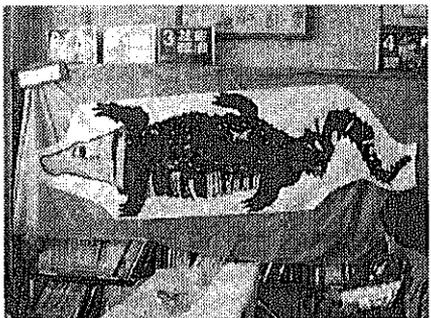
(1) 実践の目的

生活科から社会や理科に学習が広がり、何事にも興味を示す活動的な3年生の時期に、いろいろな場面を体験させることは大切である。そこで総合的な学習の時間を「ミラクル発見タイム」と題して、様々な体験活動を手がかりに調べたりまとめたり発表したりする学習を展開する。また、日本からは遠く、馴染みのない国「マラウイ共和国」の暮らしぶりや国情を教師の視察体験談を通して知らせることで、世界に目を向けさせたい。そして、違いを理解するだけでなく、自己の生活を振り返りより良い生活を築こうと努力する心を育てると共に本当の幸せについて考えさせたい。そして感動体験を正しく、自分らしさを発揮して伝えようとする態度も育てていきたい。

(2) 年間計画

メインテーマ <ミラクル発見タイム>

| | |
|--|--|
| <p><1学期> ① 実践1 ミラクル発見タイムパートI <スーパーで世界探検!!></p>  <p><発表会楽しかった!!></p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学区探検でスーパーを探し、くだもの、やさしい、魚や肉が外国からきていることに気付く。<不思議> ・調べてみたい物のグループに分かれる。 ・調べる→(資料作成)→発表会 <p><ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・見つけたふしぎを分かりやすくまとめることができる。 ・聞き手によく分かるように工夫して発表することができる。 |
| <p><2学期> ② 実践2 ミラクル発見タイムパートII <ウル・ルン・ワールド> <先生のビックリ体験 インマラウイ></p> | <ul style="list-style-type: none"> ・調べてみたい国のアンケートから6カ国(エジプト・アメリカ・フランス・オーストラリア・ブラジル・中国)を決める。 ・調べてみたい内容によって各国IIIグループに分かれる。 |

| | |
|--|---|
|  <p><学習発表会 がんばったよ！></p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自分らしさとは何か考え、発表めあてカードを作成する。 ・調べる→（資料作成）→発表会 <p><ねらい></p> <p>自分らしさを発揮して発表することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の話から途上国の実情を理解し、違いを理解するだけでなく、本当の幸せについて考える。 |
| <p><3学期> ③ 実践3 ミラクル発見タイムパートIII <昔と今と></p> | <ul style="list-style-type: none"> ・調べてみたい昔を個人で調査発表。 <p><ねらい></p> <p>自分らしさを発揮して、発表できる。</p> |

(1) 実践例 3年生 77名

(1) 単元名 ミラクル発見タイムパートII <ウル・ルン・ワールド>
<先生のビックリ体験 インマラウイ>

(2) 単元の意義

毎日の生活の中で自然に触れる外国に目を向けさせ、感受性豊かな子ども達にあるがままの世界各国の様子を知らせることは、外国を正しく知り、子ども達がこれから歩む道を探求する上で大切なことであり、我々大人の責任ではないかと思っている。そして、違いを理解するだけでなく、自己の生活を振り返りより良い生活を築こうと努力する心を育てたい。そして感動体験を正しく、自分らしさを発揮して伝えようとする態度も育てていきたい。

- (ア) 目標
- ・自分らしさを発揮して発表することができる。
 - ・世界の国々の実情を聞いたり調べたりしてまとめることができる。

(イ) 指導計画

| | | | | |
|---|---|---|---|--|
| <p>調べよう (13時間)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・調べてみたい国のアンケートから6カ国（エジプト・アメリカ・フランス・オーストラリア・ブラジル・中国）を決める。 ・調べてみたい内容によって各国IIIグループに分かれる。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>エジプト</p> <p><ピラミッドの歴史> <ピラミッドの構造> <さばくの生き物></p> <p>フランス</p> <p><お菓子> <フランス料理> <建物></p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>中国</p> <p><中華料理> <昆虫> <食べ物></p> <p>アメリカ</p> <p><大リーグ> <お金> <食べ物></p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>オーストラリア</p> <p><動物> <植物> <食べ物></p> <p>ブラジル</p> <p><昆虫> <食べ物> <アマゾン川の動物></p> </td> </tr> </table> | <p>エジプト</p> <p><ピラミッドの歴史> <ピラミッドの構造> <さばくの生き物></p> <p>フランス</p> <p><お菓子> <フランス料理> <建物></p> | <p>中国</p> <p><中華料理> <昆虫> <食べ物></p> <p>アメリカ</p> <p><大リーグ> <お金> <食べ物></p> | <p>オーストラリア</p> <p><動物> <植物> <食べ物></p> <p>ブラジル</p> <p><昆虫> <食べ物> <アマゾン川の動物></p> |
| <p>エジプト</p> <p><ピラミッドの歴史> <ピラミッドの構造> <さばくの生き物></p> <p>フランス</p> <p><お菓子> <フランス料理> <建物></p> | <p>中国</p> <p><中華料理> <昆虫> <食べ物></p> <p>アメリカ</p> <p><大リーグ> <お金> <食べ物></p> | <p>オーストラリア</p> <p><動物> <植物> <食べ物></p> <p>ブラジル</p> <p><昆虫> <食べ物> <アマゾン川の動物></p> | | |
| <p>まとめよう (15時間)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・発表の仕方を考えながらまとめ方を工夫する。 ・模型、劇、紙芝居、クイズ、ゲーム、ペープサート、ポスター、ロールスクリーンなど各グループで発表方法を創意工夫する。 ・「マラウイ共和国」での先生のビックリ体験を聞いて考える。 | | | |

| | |
|-------------------------|---|
| 発表しよう (2時間) 学習発表会 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分らしさとは何か考え、発表めあてカードの作成。 <ねらい> 自分らしさを発揮して、工夫して発表することができる。 |
|-------------------------|---|

(ウ) 実践の様子

| 学 習 活 動 | 児 童 の 様 子 |
|---|--|
| <p>(1) 発表会に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力して発表会の準備をする。 約束を守って発表会に参加する。 <p>(2) 発表内容の検討 <発表する立場で></p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容を分かりやすく話す。 ・特に伝えたい事を中心に限られた時間の中で話し方を工夫する。 ・聞き手の反応を意識しよりよい発表を目指す。 ・自分らしさを発揮して発表する。 ・模型、劇、紙芝居、クイズ、ゲーム、ペープサート、ポスター、ロールスクリーンなど各グループで発表方法を創意工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・何をどう調べ、どのようにまとめ発表するのか皆で話し合って見通しを立てることができた。書物やパソコンから思ったように情報が得られない時に苦勞したが、困ったときは進んで教師に相談し話し合いを進めることができた。 <div data-bbox="608 636 927 882" data-label="Image"> </div> <p>「エジプトのピラミッドの歴史」を調べたグループは、発表内容をクイズにして伝えることを話し合っただめた。</p> <p>「フランスの建物」を調べたグループは、内容をポスターにまとめたり、低学年でも楽しく参加できるようにゲーム形式で発表したりすることを相談して決めた。</p> <div data-bbox="995 972 1374 1256" data-label="Image"> </div> <p>「ブラジルの昆虫」を調べたグループは、ポスターや紙粘土で模型を作って発表する方法がみんなにわかりやすいのではないかと話し合っただめた。</p> <p>「中国の食べ物」を調べたグループは、日本で食べられている中国の食べ物について調べ、ポスターにまとめた。クイズを取り入れ、参加者が楽しむことができる工夫をした。</p> <div data-bbox="1018 1644 1398 1928" data-label="Image"> </div> |

(2) 発表資料の作成



「オーストラリアの植物」を調べたグループはインターネットからの情報の有意義になどまとめる項目をよく話し合っていた。

(3) 発表原稿の作成

・ 「砂漠の生き物」について調べたグループはインターネットで調べた内容をポスターにまとめた。また見ている人に雰囲気が出るように砂の上に生き物の模型を置くことを話し合っていた。



(4) パネルの制作

(5) 会場の設営



「ピラミッドの構造」について調べたグループは、中の様子がよくわかるように骨組みのピラミッドを使い、ポスターにも書くということを話し合っていた。

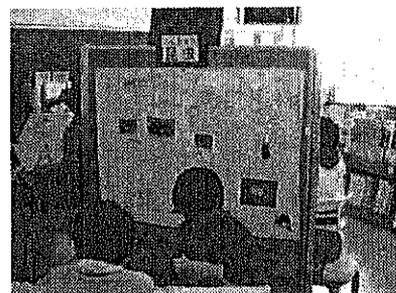
(7) リハーサル

「アメリカの食べ物」について調べたグループは、身近なマクドナルド取り上げ栄養分などを発表することを話し合っていた。



(8) 学習発表会当日

(9) 後かたづけ



「中国の昆虫」について調べたグループは、クワガタを中心に調べゲームを行いながら発表することを話し合っていた。

「ブラジルの動物」について調べたグループは、アマゾン川のワニを実物大で絵を描いて掲示し、動物博士のいでたちで発表することを話し合っていた。

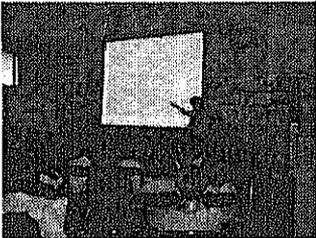


| | | |
|-----------------------------------|--|--|
| <p>(10) 外国の人からお話を聞いたり質問したりする会</p> |  <ul style="list-style-type: none"> ・折り紙などで手作りのおみやげを作り「シェイシェイ」とお礼のあいさつをして手渡すことができた。  <ul style="list-style-type: none"> ・杏仁豆腐が中華料理ではないことや、人口が日本の10倍ということや国土の広さに驚いていた。中国で使われる漢字と日本の漢字に違いがあることにも驚いた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・中国とフランスの方からそれぞれの国についてクイズや歌などを交えてお話を伺う。 ・質問タイムでは活発に手が上がった。  <p>フランスで有名なスポーツが柔道ということに驚き、美味しいクレープを食べ、フランスのお菓子やチーズの説明を聞き有意義な時をもてた。</p>  |
|-----------------------------------|--|--|

＜先生のビックリ体験 イン マラウイ＞

実践内容（概要）

| 学 習 内 容 | 教師の働きかけ | 予想される活動 |
|---|---|---|
| <p>① びっくり体験の一覧表を見て内容を確認する。</p> <p>自然 食生活 生活 マラウイ人</p> <p>② 想像した体験内容と教師の視察体験を照らしあわせながら聞いたりデモンストレ</p> | <p>① 自然「ぞう、ライオン、くま、さる、へび・ごりらなどの野生動物に出会った。目の前で見た。」</p> <p>映像を見せながらマラウイの自然と動物について説明をする。</p> <p><u>資料<DVD 野生動物編></u></p> <p>② 食生活「いろいろな種類のおいしい料理や珍しいものを食べた。」</p> <p>写真と「シマ」の材料を見せて説明する。自分たちの食事との違いに気付かせる。</p> <p><u>資料<CD 写真></u></p> <p>③ 生活「先生が有名人に？」</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 映像からマラウイの自然の様子を知る。 ・ 他の動物はいなかったかなど質問ができる。 ・ 「シマ」の材料に興味を示す。 ・ 食文化の違いに気付く。 ・ 作ることに意欲をみせる。  <ul style="list-style-type: none"> ・ 現地の子どもたちの様子を注意深く観察し、何をしているところか |

| | | |
|--|---|--|
| <p>ーションに参加したりする。</p> <p>③様々な角度から日本とマラウイを比較した一覧表を見て違う事と同じ事に気付く。</p> | <p>現地の小学校の視察の映像を見せて何をしているところか考えさせる。<u>資料<ビデオ></u></p> <p>「マラウイ」の子どもたちの様子、特に笑顔に注目させる。</p> <p>④ マラウイ人「やさしい人ばかりで先生は感動した。」布を見せて何に使うのか考えさせる。発表したい児童に体験させる。<u>資料<布></u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気付いた違いを発表させる。 ・ 違ってないことは何か今までの授業の流れを思い起こして考えさせる。 <p><u>資料<CD写真></u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「子どもたちの笑顔」から本当の幸せとは何か考えさせる。 | <p>考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この場面で教師がどんなびっくり体験をしたのか想像し発表する。 ・ ダンスや劇の内容の説明を聞き理解する。  <ul style="list-style-type: none"> ・ 何に使う布なのか布に触って想像し考えを発表する。 ・ 違いを見つけて進んで発表する。 ・ 違ってないことに気付き発表する。  <ul style="list-style-type: none"> ・ 本当の幸せとは何かを考え、発表する。 |
|--|---|--|

<3年生の子どもたちと共に>

- ・ 地域と外国とのつながり発見から、生活の中で自然に触れる外国に目を向け、興味関心のある分野を調べ、まとめ、発表する経験を重ねて、人に伝える楽しさや伝わった喜びを味わうことができた。と同時に伝える内容によって伝え方を工夫しようと努力する姿が見られた。
- ・ 疑問や質問を各自がもって臨んだ教師の海外視察体験

<先生のビックリ体験 インマラウイ>の授業では下記のような反応があった。

- ・ 他の動物はいなかったかなど質問がたくさんでした。
- ・ 「シマ」の材料に興味を示した。食文化の違いに気付き作ることに意欲をみせる。
- ・ 現地の子どもたちの様子を注意深く観察し、何をしているところか考えた。
- ・ 教師がどんなびっくり体験をしたのか想像し発表した。
- ・ ダンスや劇の内容の説明を聞き理解した。
- ・ 何に使う布なのか布に触って想像し考えを発表した。
- ・ 違いや違ってないことを見つけて進んで発表した。

楽しいこと面白いことが大好きな3年生の子どもたちと世界を調べまわって感動体験を共有できたことは、新鮮な目で世界を見回すことができ大変幸せなことであった。

2004年度 教師海外研修（派遣国：マラウイ）授業実践報告書

【タイトル】

「2004年、あまりに暑い夏だったので、マラウイに行ってきた」

河上 康一（石川県立金沢中央高等学校 昼間定時制 社会科担当）

実践教科 現代社会 授業時間数 10時間
 対象生徒 総合学科一年、午前制および中間制、各1クラス
 対象生徒数 2クラス 約25名

《カリキュラム案》

（1）実践の目的

現代社会の学習における「国際社会と人類の課題」の分野の基本的な学習内容をマラウイでの派遣研修と関連づけながら学ぶ。

（2）授業の構成

| 時 | タイトル | 内容とねらい・方法 | 使用教材 |
|----|---------------------------|--|----------------------------|
| 1 | マラウイはどこにある？ どうやったら行ける？ | マラウイの位置と気候、日本からの行き方 国境の越えかたと国境の管理の理解 | 現地の写真 世界地図 |
| 2 | 日本から見た 一般的な国際社会 | 主な国の海外在留邦人数の比較 河上本人の過去の外国旅行の記録 以上から日本での一般的国際認識を分析 | 海外の写真 世界地図 |
| 3 | 日本のテレビに登場 したマラウイ | マラウイを舞台にした日本の若者の恋愛 ゲーム番組「あいのり」を視聴。 番組の企画について考える。 | ビデオ及び 番組HP |
| 4 | 私たちが見た マラウイの人と生活 | 今回の研修で撮影されたビデオを視聴 その中からマラウイの生活を読み取る | 現地撮影ビデオ |
| 5 | “ビンボー”って どんなこと | 生徒たちが想像する「ビンボー」について 日本とマラウイの生活基本データ比較 | データブック「オ ザワルト」2004 |
| 6 | マラウイの現実1 —経済— | マラウイの物価、産業、経済状態 南北問題と国際貿易、国民総所得の理解 | 現地の写真 |
| 7 | マラウイの現実2 —学校と教育— | マラウイの学校教育の日本との比較 マラウイの子どもたちの社会意識と自分 たちの社会に対する問題意識の比較 | 現地の写真 現地中学生の アンケート回答 |
| 8 | 「貧しい国」の存在を どうとらえるか | 貧しい国の変わるべき道と方法を考える。 先進国に暮らす自分たちの生活を見直す。 | 現地の写真 |
| 9 | 「貧しい国」にはどんな 支援が必要か | インフラ、経済活動、食糧・居住・環境、 保健・医療、教育の国際支援のあり方につ いて考える。 | JICAパンフ |
| 10 | 日本は途上国にどんな 国際支援をしているか | ODAの実態とJICAの活動 国際連合の活動とNGOの役割 | |

(3) 授業を振り返って

「現代社会」の国際分野、10時間の授業実践についてその内容と生徒の反応を簡単にまとめてみます。

【第一時】

我々を歓迎するマラウイの人々とマラウイ湖【写真1, 2】を見せ、この夏、あまりに暑かったので「マ〇〇〇・」に行ってきたというところから話をはじめました。生徒は世界地図を見て「マ」からはじまる国をチェック。マラウイをみつけます。しかしアフリカなのに暑くないのはなぜだろう。そこから北半球と南半球の季節の違いなど基本的な地理知識を確認しました。その後、名古屋、香港、南アフリカ、マラウイとたどった航空路を確認、所要時間や時差、パスポートなど国境を通過する時のしくみも確認しました。

【第二時】

日本人が一般的に考える「国際社会」について、外務省統計資料の「在留邦人数」と僕自身の海外旅行体験と写真から学習しました。在留邦人数上位20カ国を地図で確認すると一つの「国際社会」が見えてきます。一方、僕の旅行体験がヨーロッパからアジアへとシフトしていった個人的背景と理由も伝えました。パリなど各地の代表的風景をとらえた写真を見せましたが、半数近い生徒はそれがどこかわからないというのが現実でした。

【第三時】

マラウイで収録した人気テレビ番組『あいのり』を視聴しました。この日本の若者たちの外国での恋愛ゲーム番組ではその国の生活がほとんど取り上げられていなかったり、逆におもしろおかしく取り上げられたりしています。一方、番組ホームページには『あいのり募金』という撮影国に対する援助支援の報告があり、それも教材に使用しました。予想通り、この番組視聴でマラウイが生徒にとって身近に感じられることはなかったようです。

【第四時】

同行者の今井さんからいただいた現地で撮影したビデオを視聴しました。生徒たちがそこからマラウイの人々の生活で気づいたことをあげていきます。出てきた意見は二つに集約できました。一つはマラウイはすごく貧しいということ。もう一つは、マラウイの人々の表情はとても明るいというものでした。

【第五時】

「ヒンボー」について生徒たち「貧乏な人(家庭)には～がない」という形で意見を出してもらいました。取り扱い方によっては差別的な内容になる恐れもあるので注意して進めました。「金」「仕事」「電気」「家」といった一般的なものから「希望」「やる気」「自信」といった論議の対象になるものまで多数意見が出てきました。その後、日本とマラウイの乳児死亡率、平均寿命、合計出生率、国民総所得、発電量、輸出入総額、自動車や電話の普及率、識字率などを比較しました。平均寿命等の問題については、マラリアやエイズの問題など、現地特有の事情について説明を加えました。

【第六時】

写真【3～6】を使ってマラウイの経済事情を学習しました。ガソリン、米、ジュースなどの物価や現地の住環境を伝えます。マラウイでは日本と逆に輸入品が高いことに気づかせました。そこから発展途上国の貿易の実態、外国為替レートの問題、南北問題へと学習を広げます。また国民総所得について考え、家事や自給自足などその計算にあらわれないものがあり、数字の差だけ貧しいわけではないということにも気づかせました。

【第七時】

独立40周年のマラウイの学校教育の現状を学習しました。比較資料として日本の進学率の推移や、40年前の日本の様子にも触れました。その後、同行者の水野さんが現地の中学生から回収したアンケートと同じものを生徒たちにも回答させ、その違いを比較しました。大切なもの、ほしいもの、夢といった質問にストレートな答えを出しきれない日本の生徒に対して、教育、学費、教師といった回答が多数をしめるマラウイの生徒たちの意識が、マラウイと日本の子どもたちのおかれている現状の違いをはっきりとさせました。

【第八時】

「貧しい国」の存在についてどう考え、どう改善するのかを考えました。仕事を増やす、学校にいけるようにする、長生きできるようにするといった意見が出てきました。また、現地のホームステイ先の写真【7～8】を見せて、貧困の改善には世界各国からの支援と当事者の意欲の両方が必要であることに気づかせました。その後でフリーターや不登校、ゴミ問題など、仕事、学校、食と健康をとりまく日本の現状についても考えさせました。豊かさの中で失われるものもあるということに気づいてほしかったのです。

【第九時】

「貧しい国」の支援策について考えました。生徒の意見をJICAが示す「経済基盤」「経済活動」「食糧」「居住・環境」「保健・医療」「教育」六つの支援に分類しようとしたが意見が出ず、逆に六つの分類を示したら次々と意見が出てきました。そしてその中から電化、食糧増産、学校教育について具体的支援策を考えました。その中で支援とは現地の人々の自立を助けるものであり、支援する側が迂回してきた利益を享受するためのものであってはならないということを確認しました。学校教育については読み書き計算といった基礎や就業のための実学に加え、社会を認識する力とそれを動かす行動力の大切さを伝えようと思いました。これは現在の日本の教育にも欠けているものだからです。

【第十時】

僕のマラウイ訪問がODA予算によるJICA活動の一つとして行われたことを告白、ODAの内容やマラウイにおけるJICAの青年海外協力隊の活動を学習しました。また国連関係の支援組織やNGOについても簡単に学習。最後に、貧困問題は現在、解決にむかっていると思うかと尋ねました。多くの生徒は「いいえ」のほうに○をつけました。

【写真1】



【写真2】

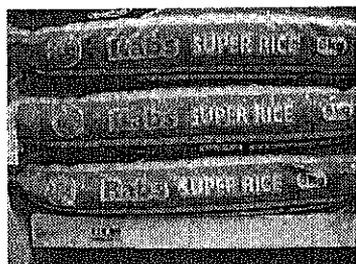


【写真3】



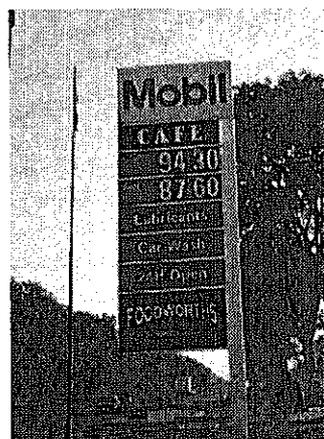
ジュース1リットル約210円

【写真4】



米5キロ約480円

【写真5】



ガソリン1リットル約94円

【写真6】



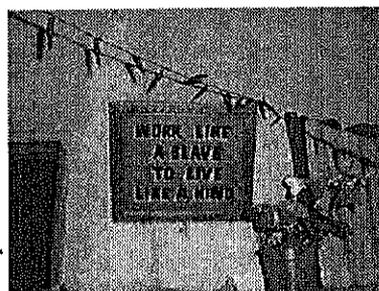
農村の一般的住宅

【写真7】



ホームステイ先の居間の風景。JICA協力隊員の農業指導パートナー宅。夫婦共に日本での研修経験がある。

【写真8】



H16年度 教師海外研修（派遣国：マラウイ）実施報告書

- 1 タイトル Zikomo! (じこも!) 自らの考え・行動が未来を応援する!!
 2 氏名 木村 友美
 3 学校名 岐阜県立恵那農業高等学校 担当教科 英語
 4 実践教科 Oral Communication I・II・図書館講座 時間数 14時間+α
 5 対象生徒・学年 1年・2年選択者・希望者
 対象人数 180人

5 カリキュラム数

(1) 実践の目的

他国について調べ、考えていく中で、文化の多様性や文化に優劣はないこと・人権の普遍性を理解する。また、"Earth is our biggest country"であることを理解し、その国を通して学んだことから、地球市民として私達の課題・責任・生き方について考える。

(2) 授業の構成案

| 時限・テーマ・ねらい | 方法・内容 | 使用教材 |
|--|---|---|
| 1 時限 テーマ：世界の国々の文化・人権・教育について考える。 ねらい：導入のため他国に興味を持たせる。 | 1 Warm-up クイズゲーム 「トイレ事情」「あなたならどうする？」をペア・グループで取り組む。 2 発展途上国・先進国を Brain Storming でリストアップ。「それぞれどういう国に訪れたいか？訪れたいと思わないかについて話あいカテゴライズする。」 | ハンドアウト |
| 2 時限 テーマ：日本と幸せについて考える。 ねらい：日本と自分自身を振り返る。 | 1 日本の良い所と悪い所をディベートする。 2 幸せについて考える。 | ハンドアウト |
| 3・4 時限 (+α) テーマ：マラウイを知り、考える。 ねらい：他国に興味を持ち、日本・自分の生活と比較してみる。 | 1 アフリカに対するイメージを Brain storming する。 2 写真・地図を提示しながら、マラウイはどんなところかを話していく。 3 マラウイ体験 (+α = 異文化体験) ①アフリカ料理 Bobotie / Koeksisters のレシピを訳して、調理・振り返り (2時間) ②Malawi's Shoreside Splendor (英字新聞) の内容理解と発表 (2時間) 4 マラウイにあって日本に無いもの・日本にあってマラウイに無いものを議論する。 5 マラウイから学んだこと・日本ができることを考える。 | 1) 世界地図 2) マラウイ地図 3) 新聞 4) 写真 5) バケツ・水 6) データ 7) スライドショー 8) ハンドアウト |
| 5・6・7 時限 テーマ：諸外国について知る テーマ：他国への興味を持たせること。 | 1 40カ国の発展途上国だと生徒がイメージした国をペアで調べる。 | 1) くじ 2) 調べシート |
| 8・9・10 時限 テーマ：職業観を育てる ねらい：企画力と自分の学びを知る。 | 1 旅行代理店で働く場面を設定し、ペアで高校生向けの研修旅行を企画する。(ボスよりいくつかのルールを出される) | ワークシート |
| 11・12 時限 テーマ：諸外国を知る ねらい：他の生徒の学びを共有する | 1 それぞれのペアがプレゼンを行う。 2 お互いに企画案を評価しあい、改善点・学びについて共有する。 | 1) くじ 2) 評価用紙 |
| 13・14 時限 テーマ：地球市民として未来を考える。 ねらい：日本と自分を今一度、振り返る。 | 1 他国の良い所を振り返る。 2 「幸せ・豊かさ」とは何かを考える。 3 こんな国にしたい・こんな自分になりたい を考える。 4 地球市民に伝えたいメッセージ 5 英語の歌を通して世界を振り返る "This one's for the children" by New Kids on the block | ワークシート |

授業の詳細

1 時限

- 1 ウォームアップとして生徒にプリントを配付をし、世界のトイレ事情はどうなっているかを考えたり、言葉が分からないと、どんなことがおこりうるのかを考える。また、多数派と少数派の体験をすることにより、どんなふうにしたのかを考える。
- 2 発展途上国と先進国だと思われる国をブレインストーミングして、その中でそれぞれ行きたいと思われる国と行きたいと思わない国に○をつける作業を行い、どうしてその国に行ってみたいのか、またどうしてその国に行きたいと思わないのかを考えることによって、良い所と悪い所を考えていく機会を設ける。

2 時限

- 1 日本の良い所と悪い所をグループでそれぞれ話し、ディベートに向けて準備する。そして最後に判定を行う。
- 2 プリントを配付し、「どんな時に幸せを感じるのか」「今、欲しいものは何か」を書き、グループで共有した後、クラス全体で考える。

3・4 時限

- 1 アフリカに対するイメージをブレインストーミングし、どんなイメージを持っているのか共有する。
- 2 マラウイについて学びの5視点から話をしていく。
(印象に残った言葉・数字・データから)
 - 1) マラウイについて知る
(人間性・生活・自然・経済・文化宗教・街・ジェンダー・保健医療・教育)
 - 2) 違いに気づき、理解する。
 - 3) 人権の普遍性
 - 4) 援助を考える
 - 5) 日本・自分を振り返る
- (+α) アフリカの異文化体験とマラウイの文化を知る (英語選択者のみ)
 - ① 現地の料理を作ってみる。(2時間)
レシピを日本語にする。
レシピに従い、グループごとに調理する。
感想を言い合い、振り返りシートを作成する。
 - ② マラウイに関する新聞記事をペアーで段落ごとに意味を理解し発表する。(2時間)
- 3 マラウイにあって日本に無い物・日本にあってマラウイに無い物をかきだしてみる。
- 4 マラウイから学んだこと・日本ができることをペアーで考える。

5・6・7 時限

- 1 1時限で発展途上国だと生徒がイメージした国を中心にこちらがピックアップした40ヶ国の中からペアーでくじ引きをして一ヶ国を引き、その国について提示した項目について調べる。ただし、モデルを前もって説明する。

40ヶ国

- 1 China (中国) 2 Mongolia (モンゴル) 3 Vietnam (ベトナム) 4 Lao peoples Democratic republic (ラオス人民共和国) 5 Kingdom of Cambodia (カンボジア) 6 Union of Myanmar (ミャンマー) 7 India (インド) 8 Sri Lanka (スリランカ) 9 Republic of South Africa (南アフリカ共和国) 10 Paraguay (パラグアイ) 11 Republic of Guinea (ギニア共和国) 12 Republic of Kazakhstan (カザフスタン共和国) 13 Republic of Peru (ペルー共和国) 14 Indonesia (インドネシア) 15 Tibet (チベット) 16 Republic of Madagascar (マダガスカル共和国) 17 Republic of Kenya (ケニア共和国) 18 United Republic of Tanzania (タンザニア連合共和国) 19 Bangladesh (バングラデシュ) 20 Philippines (フィリピン) 21 Brunei Darussalam (ブルネイ・ダルサラーム国) 22 Thailand (タイ) 23 Federative Republic of Brazil (ブラジル連邦共和国) 24 Republic of Columbia (コロンビア共和国) 25 Argentine Republic (アルゼンチン共和国) 26 Republic of Bolivia (ボリビア共和国) 27 Republic of Ecuador (エクアドル共和国) 28 Republic of the Fiji Islands (フィジー諸島共和国) 29 Papua New Guinea (パプアニューギニア) 30 Republic of Costa Rica (コスタリカ共和国) 31 Dominican Republic (ドミニカ共和国) 32 Jamaica (ジャマイカ) 33 Morocco (モロッコ) 34 Belarus (ベルラーシ) 35 Lithuania (リトアニア) 36 Latvia (ラトビア) 37 Estonia (エストニア) 38 Guatemala (グアテマラ) 39 Bolivian Republic of Venezuela (ベネズエラ・ボリバル) 40 Republic of Mali (マリ共和国)

- (モデル) Country (South Africa) (example of explanation)
- 1 climate (気候)

Hot in summer and mild in winter. Maximum temperatures range from 9 degrees Celsius in winter to 36 degrees Celsius in summer. Very little snow except on mountains.
 - 2 currency (通貨)

The Rand (R). R5-50 = ¥100
R1 = ¥16.5
 - 3 people (民族・人の性質)

South Africa is a very diverse country. There are many different cultures of people living in South Africa. As a result, South Africa has 11 official languages and is referred to as the 'rainbow nation'.
South Africans are generally very friendly people.
 - 4 language (公用語・現地語)

South Africa has 11 official languages. However, English is spoken by most people throughout the country.
 - 5 food (主食・その国特有な料理)

There are many different traditional dishes to choose from. Some of these are samp and beans (made from maize and sugar beans), bobotie (a curried mince meat dish) and biltong (dried, salted meat). Braaiing (BBQ) is also very popular. A popular dessert is melktart (a custard tart). South Africans also eat a lot of fruit and vegetables and drink a lot of alcohol. South African wines are well known throughout the world.
 - 6 religion (宗教)

The biggest religion in South Africa is Christianity. There are, however, a diverse range of religions including Hinduism, Judaism and traditional African religions.
 - 7 leisure・Activities (レジャー・スポーツ)

South Africans like to watch and play sport. The most popular of these are rugby, soccer and cricket. Because of the warm weather, many South Africans spend a lot of time outdoors. A lot of houses have swimming pools and many people go to the beach. There are a wide range of activities on offer in South Africa. There are beautiful beaches which are safe for swimming as well as a variety of other water sports. Inland, you are able to go on game drives to see the beautiful wildlife found in South African game reserves. South Africa has some of the best scenery in the world which can be seen by driving through the countryside.
 - 8 world heritage (世界遺産)

Robbin Island, just off the coast of Cape Town has been named a world heritage site. It was used as a prison for political prisoners during apartheid and is now a major tourist attraction.
 - 9 Culture・Festival (文化)

South Africa has a broad range of cultures. Most of these are traditional African cultures but there is also Afrikaans, Indian and coloured culture as well. All of the different cultures in South Africa contribute to it being a rainbow nation.
South Africa does not have many festivals. Easter and Christmas are Christian holidays which are widely celebrated. The Hindu festival of lights (Diwali) is also celebrated by Hindu people throughout South Africa.
 - 10 Souvenirs (その国特有のおみやげ物)

There are many traditional African crafts that can be found for sale at all markets and tourist destinations in South Africa. These include carved wooden and bone statues and jewellery as well as beadwork and cloth items. South Africans are very proud of their animals and souvenirs items depicting these animals can be purchased in most places.
 11. Diseases

South Africa has a high prevalence of Tuberculosis (TB) among its more poverty stricken societies. HIV and AIDS are also widespread with almost 1 in 4 people being infected. In some wildlife areas, malaria can also be a problem.

Country (South Africa)
 Title (題) アフリカ人オススメ学びツアー
 Slogan (キャッチフレーズ) 10日間でアフリカン
 Purpose (目的) アフリカで生活体験することで、アフリカの良さを学ぶと共に、日本
 の生活を振り返る。

| (Itinerary) | Plan | Hotel | Food |
|-----------------|--|----------|--|
| <u>1st day</u> | (in the morning) Arrive at Johannesburg International Airport. Check into hotel. (in the afternoon) Watch movie about SA and its various attractions in preparation for or next few days. (at night) Go out to steakhouse for dinner. | | an in-flight meal Light lunch at hotel. |
| <u>2nd day</u> | (in the morning) Depart after breakfast for bus to take students to Soweto for township tour. Some sights included in the tour are traditional Soweto family home, (in the afternoon) Lunch at tuck shop in township before returning to hotel. (at night) Braai in garden of hotel. | Hotel | |
| <u>3rd day</u> | (in the morning) Depart for Kruger National Park. Complete obstacle course at parks outdoor education center. (in the afternoon) Picnic lunch. Free time at park followed by sunset game drive. (at night) Supper at bush camp and stay over night in camp. | Hotel | |
| <u>4th day</u> | (in the morning) Sunrise game drive followed by bush breakfast. (in the afternoon) Visit to wildlife education center to learn about wildlife and conservation. Lunch at center and opportunity to buy souvenirs. (at night) Back to hotel. Dinner at hotel. | Hotel | |
| <u>5th day</u> | (in the morning) Bus trip to Pretoria to see the Parliament buildings. (in the afternoon) Visit to Pretoria zoo. Lunch at zoo cafeteria. (at night) Back to hotel for supper and to pack. | Homestay | |
| <u>6th day</u> | (in the morning) Fly to Cape Town. Taken to Victoria and Alfred Waterfront for sightseeing. (in the afternoon) Lunch at V&A waterfront followed by trip to Two Oceans Aquarium. (at night) Dinner at Waterfront restaurant and then back to hotel. | Hotel | |
| <u>7th day</u> | (in the morning) Visit to Cape Winelands to see how wine is produced. (in the afternoon) Picnic lunch at winefarm. Trip to Table Mountain. Take cable car up the mountain. (at night) Supper at steakhouse in city. | Hotel | |
| <u>8th day</u> | (in the morning) Pack and leave for host family to begin homestay. (in the afternoon) Spend day with host family (at night) Dinner and evening spent with host family. | Hotel | |
| <u>9th day</u> | (in the morning) Go to local high school with host family children. (in the afternoon) Experience typical day at a South African High School and sport practice in the afternoon. (at night) Return to hotel to pack. | Hotel | |
| <u>10th day</u> | (in the morning) Fly back to JHB. (in the afternoon) Visit to Gold Reef City to go on tour. Shown how gold is mined and coins minted. Visit Gold Reef city amusement park. (at night) Supper at hotel. Pack for flight back to Japan. | | |

8・9・10時限

1 職業観を身に付ける場面設定として、旅行代理店で働く場面を与える。ペアで農業高校生向けの研修旅行を企画する。ただし、様々なルールをクリアしながら工夫をこらし、企画案がボスに採用されるよう生徒を励ましながら取り組ませる。

(ルール)

- ① その国の平均的な家庭にホームステイを1日入れること。そのとき地球家族等を参考に写真や絵を提示すること
- ② 1日おこずかい日本円で2,000円とする。その金額の中でお昼は、その国特有の料理やお土産を買うことができるように絵や写真を通して説明できるようにしておく。
- ③ 朝と晩の食事は時間短縮のためホテルとする。
- ④ 午前・午後・晩の研修・観光・アクティビティーを考えること。ただし、プレゼンするとき、この企画は学びツアーであるため次のことに留意する。
 - 1) 自然を楽しめるツアーに
 - 2) 文化を体験できるように
 - 3) 現地のものが買えるように
 - 4) その国の特色を見学できるように(農業・工業・産業・商業等)
 - 5) 世界遺産を最低1つ入れること
 - 6) 最低半日、学校訪問を入れること
 - 7) 飛行機で名古屋・成田発でこの国を経由して、何時間かかるかを明示すること。
- 5 病気等流行しているものはないか。また、その国特有の病気はないか。もしあればそれについても調べ、注意すること。

11・12時限

1 それぞれのペアがくじ引きの順番により、プレゼンを行う。その際、評価される項目について再度、説明する。

(教師による評価の観点)

- 1 日程はルールどおりに組まれているか。
- 2 絵や写真などを効果的に用いているか。
- 3 その国についてよく調べられており、他者に分かりやすい発表となっているか。
- 2 他のペアは傾聴の姿勢で取り組み、発表後、良かった点と改善すべき点を評価用紙に記入し発表者に提出する。
- 3 発表後、改善を加えたものをレポートとして提出する。

13・14限

- 1 ウォーミングアップとして、他国の良いところを振り返る。
- 2 2時限目に幸せとは何かを触れたが、今一度、「幸せ・豊かさ」について考えてみる。
- 3 プリントにこんな日本にしたい・こんな自分になりたいを考えて書いてみる。
- 4 地球市民の一人として地球市民に伝えたいメッセージを書いてみる。
- 5 英語の歌を通して世界を振り返る。助動詞・不定詞を英語の歌詞から理解するとともに、その歌のメッセージを考える。

(生徒の反応)

1 世界のトイレの様式を考えてみよう！

- | | |
|-----------------------|-------------|
| ・拭かない | ・水で洗い流す |
| ・川へ直接する | ・薬っぱで拭く |
| ・新聞紙・手・ひも・動物の皮・木の皮で拭く | |
| ・穴を掘って土に埋める | ・洋式 |
| ・中国は扉が無い | ・和式 |
| ・肥料にする | ・ユニットバス |
| ・ドアのないトイレ | ・川海など水の中でする |
| | ・くみ取り式 |

(学び)・多様性

トイレには色々な様式がある。でもこれは違っても良いことだね。

2 言語が分からないところで家族が病気になりました。医者に行ったところ、言葉が通じません。紙も書く物もありません。医者が2つ包みをくれました。1つは薬で1つは毒です。でも薬を飲まないとおかしくありません。どうしますか。

- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| ・いちかばちか飲ませる | ・自分が飲んで確かめる |
| ・ジュスチャー | ・動物に飲ませてみる、動物実験 |
| ・医者に飲ませようとしてその反応を見る・患者に選ばせる | |
| ・他の人間で確かめる | ・日本大使館に行く |
| ・金魚に試しに飲ませる | ・医者に毒味させる |
| ・ほかの病院に行く | |
| ・飲ませず様子を見て、ひどくなったら手術してもらう | |

(学び)・・・言葉・識字能力(言葉が理解できないと困ることが生じるよね。)

3 ノアの箱船

友達4人で旅行をしていて遭難しました。ボートには3にんしかのれません。あなたならどうしますか。また、あなた1人が残るように言われたらどのように感じますか？（どうする？）

- ・自分が降りる。
- ・おりてもいいけど、他人が降りるといふ人がいれば任せる。
- ・無理やりやり乗る
- ・交代してみんなで生きる
- ・2人ボートに乗って助けを呼ぶ
- ・一人殺す
- ・2人で行って、一人が戻ってきて助ける
- ・一人ボートにつかまる（寒くなったら交代する）
- ・一番嫌いは人を気絶させてその間に逃げる
- ・二人で行って一人は助けを呼びに行き、もう一人はボートで戻る。
- ・けが人や病気をしている人を乗せる
- ・ボートを改造して4人乗れるようにする
- ・筏を造って4人乗っていく

(どのように感じますか?)

- ・うっとおしい
- ・他のみんなも死ねばいいと思う。
- ・心の中では文句を言うけど、表面では何もいわず降りる。
- ・絶対残らない
- ・遺言を残したい気分
- ・あ〜！！と思う
- ・仕方がない
- ・みんなもおろさせる。
- ・殴る
- ・寂しく思う
- ・キレル

(学び)・・・多数派・少数派

一人つきりになると、不安になるよね。

4 日本の良い所 (Brain storming して下さい)

- ・食べ物が美味しい
- ・衛生状態が良い
- ・文化財が多い
- ・スポーツが強い
- ・学習環境が良い
- ・医療が進んでいる
- ・文化水準が高い
- ・電気機器の性能が良い
- ・髪が黒い
- ・食べ物が豊富、食生活が豊か
- ・治安が良い
- ・四季がある
- ・携帯電話が発達している
- ・わりと平和
- ・担任がよい
- ・観光できる場所がある
- ・富士山がある
- ・アニメ
- ・女カワイイ
- ・道が舗装されている
- ・歴史がある
- ・環境を見直そうという動きがある。
- ・食料がある
- ・貧富の差がない
- ・生活に不自由がない
- ・学校・時間・電気があって好きなことができる
- ・独自の文化（茶道・華道・日本食・武道）がある。
- ・和の美がある
- ・安全
- ・幸せを感じる。
- ・侍・武士道・歴史がある。
- ・日本武道館がある。
- ・銃が無い
- ・小泉がいる
- ・治安がよい
- ・1カ国語で暮らせる
- ・交通が便利
- ・ビルが高い
- ・好きな人がいる。
- ・水道水が飲める
- ・病気の心配があまりない
- ・世界遺産がある
- ・京都がある
- ・戦争していない
- ・島国
- ・ユニーがリニューアルした
- ・米が主食
- ・温泉が多い。
- ・ボランディアをする人がいる
- ・先進国である
- ・和洋折衷

5 日本の悪い所 (Brain storming して下さい)

- ・インターネットが普及しすぎていて余分なお金が必要される
- ・天皇制
- ・地震が多い
- ・ブランド品が高い
- ・男女不平等
- ・愛情表現が少ない
- ・縦社会
- ・街がゴミ臭い
- ・人口が多い
- ・バリアフリーが浸透していない
- ・年金問題
- ・海が汚い
- ・輸入が多い
- ・石油がでない
- ・税金が高い
- ・うるさい車が走っている
- ・ガソリンの値上がり
- ・森林伐採
- ・大人には自己中 (心的) な人が多い
- ・たばこが売っている
- ・食べ物をすぐ捨てる
- ・借金がよくある
- ・学校に行かなければならない
- ・開発しすぎて環境を壊している
- ・戦争を支援している
- ・核兵器を持っていないと良いながらも持っている
- ・面積が狭い
- ・短足
- ・人間が小さい
- ・心が狭い
- ・映画がしょぼい
- ・自給率が低い
- ・鼻が低い
- ・礼儀が無い
- ・気候が悪い
- ・ゴミ・ボイ捨てが多い
- ・物価が高い
- ・自然破壊が進んでいる
- ・景気が悪い
- ・いろいろなことを隠す人が多い
- ・事件犯罪が多く、増えている
- ・税金が高い
- ・英語を話せる人が少ない
- ・若い人の犯罪が多くなっている
- ・拉致被害者が多い
- ・空気が汚い
- ・変な人がおおい
- ・小泉さん! 信じられん。
- ・自然災害が多い
- ・政治家が悪い

(参考・南アフリカの良いところと悪いところ) ALT 南アフリカ出身の Jucinha 先生にインタビュー

(Good Points)

- 1 Beautiful scenery, sea (beaches) and bush.
- 2 Good weather: Neither to be hotter nor cold.
- 3 Lots of different cultures . There are lots of things to learn.
- 4 Everyone is very relaxed and happy.
- 5 South Africans like to have a good time.

(Bad Points)

- 1 There are lots of poverty.
- 2 Lots of people don't have jobs or houses.
- 3 Crime is high because of poverty.
- 4 There are lots of serious crime like hijacking, rape and murder.
- 5 High incidence of HIV and AIDs.
- 6 Lots of people are dying and lots of orphans are left behind.

- 6 1) 発展途上国だと思われる国をリストアップ
2) その中で訪れてみたい国に○を付けてください。

(Example)

- 1 South Africa 2 Nigeria 3 India 4 Ethiopia 5 Mexico
6 Peru 7 Phillipines

- ・インドネシア
- ・北朝鮮
- ・イラク
- ・アフガニスタン
- ・パキスタン
- ・モンゴル
- ・南アフリカ
- ・ブルネイ
- ・中国
- ・イラン
- ・ジャマイカ

- ・ミャンマー
- ・ロシア
- ・マレーシア
- ・エジプト
- ・アフガニスタン
- ・ドミニカ共和国
- ・スーダン
- ・ソマリア
- ・アンゴラ
- ・エジプト
- ・ケニヤ

- ・マラウイ
- ・ペルー
- ・モナコ
- ・チリ
- ・ベトナム
- ・エクアドル
- ・インド
- ・タイ
- ・カンボジア
- ・チリ

3) またどうしてその国に行ってみたいのか理由を挙げてください。
 They have a lot of culture and history and I want to see that because it is very interesting to me.

- ・実際に行ってどんな国なのか見てみたい
 - ・広そう
 - ・きれいな気がする
 - ・インド (インド料理が食べたいから)
 - ・インド (像に乗りたいたいから)
 - ・中国 (チャイナ服がかわいいから)
 - ・南アフリカ (まだ差別があるかみてみたい)
 - ・イタリア (本場のジェラートを食べてみたい)
 - ・小さい頃からの夢
 - ・ナイアガラの滝をみてみたい
 - ・笑顔の国 (タイ)
 - ・その国の食べ物を食べたり、買い物をしたりしてみたい
- 4) 一つも○がつかなかった方はどうして行きたいと思わないのか理由を挙げてください。

(Example)

I think these countries are very dangerous.

- ・殺されるかもしれないので
- ・何も無さそう
- ・楽しく無さそう
- ・お金がないから (お金をくれたら行く)
- ・交通手段が面倒くさそう
- ・飢えなどで苦しんでいる子供達をみるのがつらい
- ・しゃべれないし面倒臭い
- ・怖いから
- ・良く知らないから
- ・食べ物があるかわからないから
- ・I love 日本.

- 7 1) 先進国だと思われる国をリストアップ
 2) その中で訪れてみたい国に○を付けてください。

(Example)

1 USA 2 Britain 3 Germany 4 Japan 5 Australia 6 Canada

- | | | |
|----------|---------|-----------|
| ・アメリカ | ・イギリス | ・オランダ |
| ・日本 | ・ギリシャ | ・ニュージーランド |
| ・オーストラリア | ・ドイツ | ・中国 |
| ・ブラジル | ・シンガポール | ・スペイン |
| ・フランス | ・カナダ | ・スウェーデン |
| ・イタリア | | |

3) またどうしてその国に行ってみたいのか理由を挙げてください。

(Example)

These countries would be interesting to see the different areas of them because they vary a lot from beach to mountain.

- ・その国の料理 (美味しいもの) が食べたい
 - ・スポーツ観戦したい
 - ・買い物がしたい
 - ・動物がいっぱいいそう
 - ・立派な建物がありそう。
 - ・テーマパークがある
 - ・イギリス (ハリーポッターの舞台の国だから)
 - ・イギリス料理を覚えてみたい
 - ・アメリカ (マックに行ってみたい)
 - ・オーストラリアでホストファミリーに会いたい
 - ・文化に触れたい
 - ・風景がよさそう
 - ・なんとなく
 - ・安いものがいっぱい売っている
 - ・他の国より近い
 - ・外国へ行ってみたい
 - ・フランスの城を見てみたい
 - ・自由の女神がみたい
- 4) 一つも○がつかなかった方はどうして行きたいと思わないのか理由を挙げてください。

(Example)

I have an image that they are very unfriendly to me.

- ・怖いから、事件が多そうだから
- ・発展していても、戦争などをしているから
- ・日本が一番よい

- 8 どんなときに幸せを感じますか。 (生徒・・・160名)
- | | |
|---|--------------|
| 1 When I am having fun with my friends. | 1位 寝る |
| 2 When I am relaxing at home. | 2位 友だちと遊ぶ |
| 3 When I am with my family. | 3位 美味しい物を食べる |

- 9 今欲しいものは何ですか。
- | |
|-------|
| 1位 お金 |
| 2位 時間 |
| 3位 自由 |

(Brain Storming によるアフリカに対するイメージ)

- | | |
|-----------|------------------|
| 1 動物がいっぱい | 10 目が良さそう |
| 2 暑い | 11 足が速そう |
| 3 砂漠化 | 12 ビルとか高い建物が無さそう |
| 4 貧乏 | 13 伝染病が多そう |
| 5 広い | 14 野性的 |
| 6 部族がいる | 15 子どもが多い |
| 7 黒人が多そう | 16 水が無さそう |
| 8 ご飯が不味そう | 17 子どもが多い |
| 9 原始生活 | 18 裸足 |

(Brain Storming によるアフリカになくて日本にあると思われるもの)

- | | |
|-------|--------|
| 1 車 | 7 携帯 |
| 2 電気 | 8 ビル |
| 3 雪 | 9 残業 |
| 4 学校 | 10 温泉 |
| 5 自転車 | 11 服・靴 |
| 6 箸 | |

(学びの視点)

日本になくてアフリカにあるものとは何でしょうか？そこから学んだことは何でしょうか？・・・「豊かさ・幸せとは何か？」を考えてみよう！

(生徒の反応・・・他国理解・旅行計画・発表・まとめ)

クラスにより、まだプログラムのすべて終了していないところもありますが、インターネットを使い、他国の料理や民族衣装・世界遺産・学校の様子など、映像でみることで、「この料理何？ちょっと見てよ」と興味を持つ生徒が多く、「せっかく旅行の計画をたてたんだから、行ってみたい。先生 みんなでいこうよ」という感想が多く出てきました。英語嫌いな生徒が多く、「何で英語なんか勉強するの？どうせ海外なんかいかんし。むこうが日本語覚えればいいじゃん」と行っていた子たちからそのような感想が聞けたことは、非常に嬉しかったことです。また、この授業は「沢山調べて、沢山考えて、楽しかったし、追求力がついた」「時間がかかったけど、詳しく調べられて良かった。」「他の国のことを知って、自分たちが考えなければならないことが沢山あって考えさせられた」など自分の生活を振り返る良い機会になったと思います。

生徒の感想より

(1 D・23 番 西尾 友恵)

最初は楽しそうな授業だと思ったけど、実際は調べるのがとても大変だった。それに世界の人々がどんな生活をしているか分かったし、ツアーなど考えたりするのがとても楽しかった。この授業があって良かったと思う。

(1 D・35 番 宮崎 恵子)

アフリカの子どもたちの目がすごく輝いていた。とくに勉強しているときが輝いていた。どんな子どもたちも全員、学校に行けるようになれたらと思います。あと、世界から戦争とかなくなれば今よりもっと平和といえるようになると思います。世界のことを地球全体で知っていく必要があると思います。世界について沢山のことが学べて、知らないことが沢山あるんだって感じた。もっと知らないことを調べて、自分の知識を高めていきたいと思いました。

(1 D・34 番 松田 典子)

今まで、日本以外のことを知る機会が無かったけれど、14 時間という短い時間で、日本以外のことを知ることが出来たので、嬉しかったです。

(1 D・26 番 早川 優)

カザフスタン共和国は、戦争のことばかりでなかなか欲しい情報が無かったりしたけど、その中で生活している人たちの考えや文化が分かったから、やって良かったと思った。

(授業実践を通しての所感・反省点・今後の改善策)

異文化理解・体験で特に、南アフリカ料理体験やマラウイの映像は生徒に海外への興味を持たせることが出来たと思います。マラウイに自分自身行かなかつたら、ここまでふみこんで出来なかつたと思いますし、自分自身よく考えさせられました。英語の授業で実践ということもあり、常に英語を意識しながら取り組んできました。特に評価の面では他のクラスとの関係で英語科の2人の先生にご理解・ご協力頂いて1年生全クラスで、長期にわたるこのプロジェクトを行えたことにはとても感謝しています。しかしながら、この気持ちをいかに継続し、どのように行動に移していったらよいのかは難しいことです。英語の授業を通してこれからも継続して実践し、自分自身も一緒に考えていきたいと思っています。「幸せとは何か?」「豊かさとは何か?」ということについては難しい問題です。今の思いを言葉にするとしたら、「自分だけが幸せなんてあり得ませんし、みんなが幸せだと感じないときと幸せではないでしょう。豊かさもそうです。衣食住は充足していて豊かであっても、心の豊かさを考えると豊かではないかもしれません。マラウイの子どもたちの笑顔は輝いていて可愛かった。無気力な子どもたちより幸せで豊かではないだろうかという思いと同時に、吐き気がするほどの貧困という言葉はその思いをかき消しました。」私自身、明確な答えは出ませんでした。私自身もこれから生徒と一緒に考えていきたい課題であり、永遠のテーマとなることでしよう。

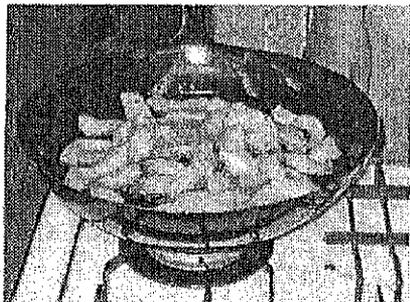
(参考資料)

- ・ South Africa 10th Anniversary of Freedom South African Embassy
- ・ アフリカ横断の旅 白川 由紀 浜島書店
- ・ Malawi's Premier Daily "The Daily Times" Wednesday, August 4, 2004
- ・ Mainichi Weekly 6/5/2004 P8-9 "Malawi's Shoreside Splendor"
- ・ 国際協力と平和を考える50話 森 英樹 岩波書店
- ・ 地球がもし100cmの球だったら 文 永井智哉 絵 木野 鳥乎 世界文化社
- ・ トットちゃんが出会った子どもたち 田沼武能写真集 岩崎書店
- ・ トットちゃんとアフガニスタンの子どもたち 田沼武能写真集 岩崎書店
- ・ 世界で一番いのちの短い国 シェラレオネの国境なき医師団 山本敏晴 白水社
- ・ 僕らは楽しむために生まれてきた 軌保博光 クラブ・サンクチュアリ
- ・ イラクの小さな橋を渡って 文・池澤夏樹 写真・本橋成一 光文社
- ・ 14歳からの哲学「考えるための教科書」 池田晶子 トランスビュー
- ・ AIDS 広河隆一 講談社
- ・ 天職 斉藤 英介 不空社
- ・ 戦争のつくりかた りぼんぶろじえくと マガジンハウス
- ・ 地球環境読本 加藤 尚武編 丸善株式会社
- ・ 地球生活記 小松 義夫 積信堂
- ・ 地球人記 小松 義夫 積信堂
- ・ 国のうた National Anthems of the World 弓狩 匡純 文藝春秋
- ・ 農の時代がやってきた 山下 惣一 家の光協会
- ・ いのちにふれる授業 高塚 人志 小学館
- ・ 母なる自然のおっぱい 池澤 夏樹 新潮文庫
- ・ This one's for the children ~クリスマスは僕らのために~ Artist:New Kids On The Block

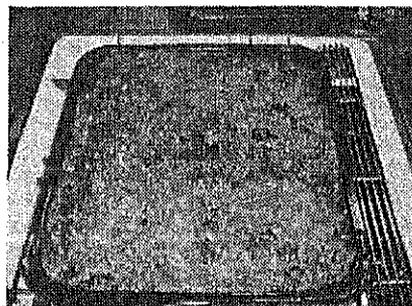
(授業の様子)

① 3 時限目 アフリカ料理体験 (Bobotie と Koeksisters)

Koeksisters



Bobotie



アフリカ料理



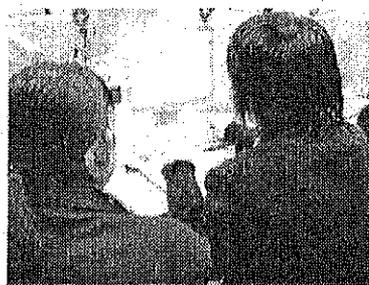
アフリカ料理



アフリカ料理



② 5 ~ 10 時限目 インターネットで訪問国の調べ学習の様子

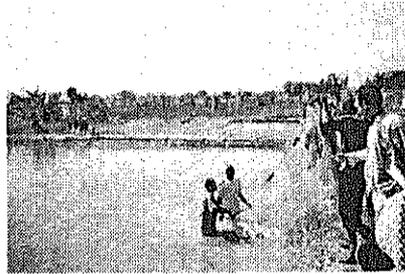


授業で使用した写真例

マーケットの様子



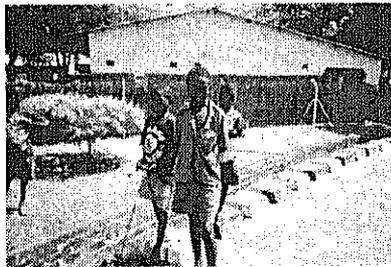
淡水魚の飼育



ため池を掘っている未亡人たち



車を製作して遊ぶ子どもたち



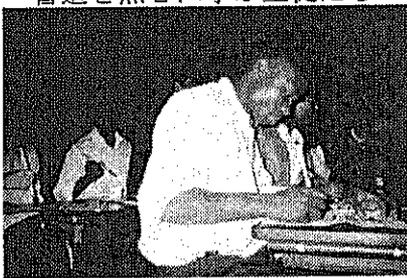
学校の様子



真剣に授業を受けている様子



書道を熱心に学ぶ生徒たち



世界遺産マラウイ湖の美しさ



大学の寮の様子



シマを作る大学生



チテンジが売られているマーケット



マラウイの家



エイズ孤児による踊り



淡水魚飼育の指導をされる様子

